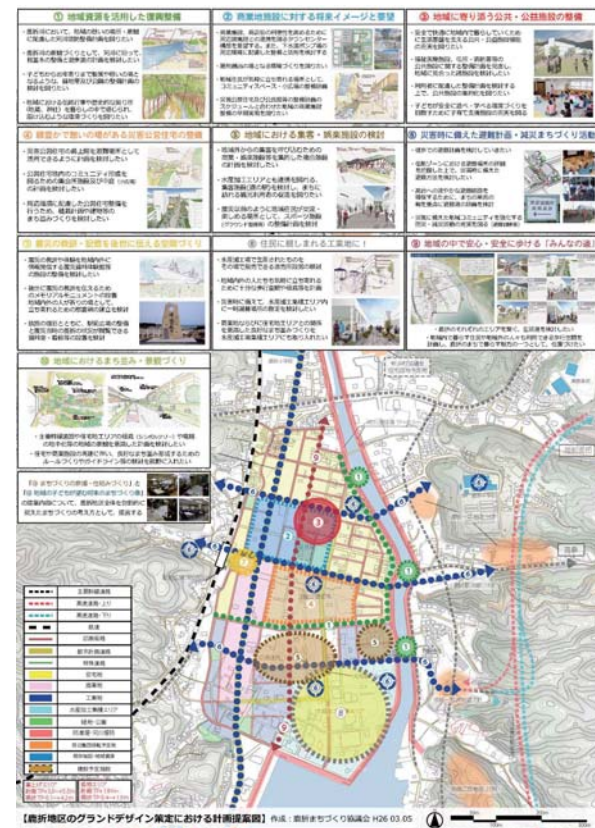


昨年10月から鹿折まちづくり協議会を中心に地域住民と議論を重ね、以下の12項目の提案内容にまとめて、「鹿折地区のランドデザイン策定における提言書」を作成しました。作成した提言書は、3月5日に気仙沼市長へ提出し、今後の鹿折地区のまちづくりへ繋げていただくことが約束されました。



鹿折まちづくり協議会の12の提言項目

- ① 地域資源を活用した復興整備
- ② 商業地施設に対する将来イメージと要望
- ③ 地域に寄り添う公共・公益施設の整備
- ④ 緑豊かで憩いの場がある災害公営住宅の整備
- ⑤ 地域における集客・娯楽施設の検討
- ⑥ 災害時に備えた避難経路・減災まちづくり活動
- ⑦ 震災の教訓・記憶を後世に伝える空間づくり
- ⑧ 住民に親しまれる工業地に！
- ⑨ 地域の中で安心・安全に歩ける「みんなの道」
- ⑩ 景観・まち並み検討による地域の魅力づくり
- ⑪ まちづくりの参加と仕組みづくり
- ⑫ 地域の子どもが望む将来のまちづくり像



鹿折まちづくり協議会

まちづくり通信 Vol.12

2014年  
2月16・21日  
開催分

制作・発行 鹿折地区まちづくり協議会

この「通信」は、2月行われた鹿折まちづくり協議会の活動内容をまとめ、鹿折地区に住む住民の方々や被災して、地元を離れて暮らす方々に知っていただくため、発行しています。

「鹿折まちづくりサロン&定例会の概要」

- 日時 2014年2月16日(日)  
10時～12時、13時30分～15時
- 場所 鹿折まちづくり協議会事務所  
及び鹿折公民館
- 定例会の参加者 30名  
協議会役員 20名  
市議会議員 1名  
アドバイザー・講師 2名  
オブザーバー 6名  
鹿折まちづくり協議会事務局 1名



2014年2月16日に鹿折まちづくり協議会の事務所にて、まちづくりサロンを開催しました。午後からは鹿折公民館で月1定例会がおこなわれました。

当日は、兵庫県神戸市から「野田北部まちづくり協議会事務局の河合節二氏」を講師としてお招きし、意見交換会をおこないました。講師の河合氏からは、神戸の震災復興から継続的おこなってきた、まちづくり協議会の活動を事例にお話していただきました。地域の住民が主体となって、復興への取り組みや将来へのまちづくりについて議論してきたことを聞きながら、気仙沼・鹿折のまちでも、直面する課題と照らし合わせ、今後のまちづくり協議会のあり方について議論されました。

鹿折まちづくりサロンのお知らせ

開催日時：**毎月第3日曜日** (次回は3月16日です)

午前10:00～12:00 (時間内で都合の良い時に来ていただいて大丈夫です)

開催場所：鹿折まちづくり協議会事務所  
(鹿折復幸マルシェB棟2階の中央の部屋)

次回のまちづくりサロンの内容

神戸から鹿折まちづくり協議会のアドバイザーである専門家と今後、まちづくり・復興への課題等を振り返り・話し合う予定です。

「鹿折中学校の生徒との意見交換会」

- 日時 2014年2月21日(金)  
14時30分～17時00分
- 場所 鹿折中学校(図書室)
- 参加者 43名(中学生30名)  
中学校教員 3名  
まちづくり協議会役員 8名  
市議会議員 1名  
アドバイザー 1名、オブザーバー 3名  
運営サポーター【宮城大学2名、近畿大学生4名】  
まちづくり協議会事務局員 1名



2014年2月21日にまちづくり協議会主催の意見交換会「鹿折の将来像を学生たちで考えよう！」が鹿折中学校で開催されました。

当日の会には、鹿折中学校の生徒(30名)とまちづくり協議会のアドバイザー・大学生が参加し意見交換会を実施しました。参加者である生徒のみなさんには「地域で暮らす子どもの目線・想い」で将来のまちづくりについて意見交換を行いました。

会の前半では、多くの生徒が気仙沼・鹿折のまちに対して、「将来、戻ってくるかわからない」といった想いから、会の後半のディスカッションを通して、「自分たちのまちがどうなったら良いのか?」「こんな街にしたい」というテーマで話し合い、様々な将来へのまちづくりに対する提案が出されました。

今後は、まちづくり協議会として、中学生と話し合った内容を将来のまちづくりへ繋げられるように、活動していきたいと思います。

震災復興整備の取り組み

- 街並み誘導型地区計画による建築計画の規制と緩和を利用し、統一のとれたまちなみの創造や住宅の再建支援。
- 街なみ環境整備事業による細街路の美化、植栽や建物修景助成。
- 住宅市街地総合支援事業を利用した共同化や協調化を実施

沿道コミュニティづくり

向こう三軒両隣以上にまたがる人同士が、話し合うきっかけをつくりながら、細街路の美化事業を行なっています。街路の美化と共に、自宅前の植栽を凝る人が増え、街並みの景観の向上にもつながっています。

高齢者が集うふれあい喫茶

ふれあい喫茶はお茶を飲みながら団欒するだけの場所ですが、高齢者はこの集まりをとて楽しみにしています。高齢者が集う場を設けることで、この世代のコミュニティづくりに貢献しています。

わがまち野田北瓦版の発行

「まちの情報は、地域住民みんなで共有しよう」を目的に情報誌を発行しています。地区内のお店に子供が突撃インタビューしたり、地区の昔の思い出話、現在進行中のまちづくりの話など地域に関わる話が多種多様に掲載されています。

意見交換の中で争った、主な疑問や課題について

- Q1**：神戸の震災では、従前の人はいくつ戻ってきたのか？  
**A1**：神戸野田北部地区では、従前の住民（約4割）が戻ったケースは多い。
- Q2**：気仙沼では津波への心配・不安があり、なかなか従前の土地に戻る人が少ない  
**A2**：津波への対策やうまく向き合っていくしかない。海のひとは、海でしか生活できない。避難道路の建設も大事
- Q3**：将来へまちづくり像を早い段階で決めてしまうことで、が出来てしまったら困る  
**A3**：合意形成のためには、頻りに会合を開いて、情報を共有していくことが大事
- Q4**：災害公営住宅や地域の見守りなどの工夫はどうすればいいのか？  
**A4**：日頃の付き合い、挨拶、立ち話などコミュニケーションが重要。また、まちづくりで大事なことは対立軸をつくらないこと
- Q5**：神戸のまちづくり協議会とはどんなメンバー構成だったのか？  
**A5**：地域の住民20～30人で毎晩集まって話し合っていた。
- Q6**：地域に住んでいた人が、現在バラバラになってしまい、集まることも難しい  
**A6**：まちづくり協議会で、地道に住民名簿をつくるしかない。各地区の協力が必要！

1 開会・挨拶

会の始めに鹿折まちづくり協議会の鈴木会長から開会の挨拶がありました。続いて、鹿折中学校の小松教頭先生からも挨拶していただきました。

2 各大学からの提案内容を説明

意見交換の参考事例として、工学院大学・近畿大学・宮城大学の各大学生が考えた鹿折のまちの将来像、まちづくり提案について説明が行われました！

3 グループディスカッション

意見交換の前に、自己紹介・旗揚げアンケートを行ないました。会場の雰囲気や和らいだところで、いよいよ各班（6班）による意見交換のスタートです！

4 全体発表

各班で話し合った鹿折の「魅力」や「好きなところ」将来へのまちづくり提案について、発表されました！各班の発表を聞きながら、会場全体で共有しました。

5 まとめ・総括

全体発表後に、近畿大学の脇田教授から会の総括をしていただきました。最後には、生徒のほとんどが、「鹿折の街に戻ってきたい」と思える意見交換会になりました。

6 閉会挨拶

会の終わりには鹿折まちづくり協議会の佐藤副会長から閉会の挨拶があり、参加した生徒の意見や提案を今後のまちづくりに取り入れていくことが決まりました！

意見交換の様子と提案内容

当日は、「将来、鹿折のまちに戻ってきたい、住み続けたい場所」にするための提案をみんなで考えました！  
 以下に、中学生が考えた将来のまちづくりのテーマと3つの提案内容を各班にまとめましたので、ご覧下さい。



1班	テーマ 「つながり」	様々な世代が住め、みんなが集まれる住宅地	川と山と空気をきれいに！ ・堤防計画を検討 ・植林して松茸狩り	伝統芸能とスポーツに触れ合える場所・機会をつくろう！
2班	テーマ 「人とつながりと鹿折の自然を活かしたまちづくり」	川沿いに花に植える	地域の人と関われるような施設	公園に休憩できるスペースを作って、多世代が集まれる場所にする
3班	テーマ 「人と自然の温かいまち」	四季の変化を感じられ、花見ができる公園	誰でも気軽に利用できる公民館	山の魅力を観光客に伝えられる看板づくり
4班	テーマ 「みんな笑顔な町」	特産物を活かしたPR	小さい子もお年寄りも集まる遊べる広場	自然を通して繋がるお花見とロープウェイ
5班	テーマ 「自然と人が調和する便利なまち」	震災の教訓を活かしたテーマパーク	気軽に交流できる市場	漁船の体験搭乗
6班	テーマ 「いつまでも自然と人が共に生きていくまち」	多くの人に鹿折の魅力である海や川、山を知ってもらい、体験できるまち	古くからある文化や人々のつながりを継承していく	自然を残しながら、新しいものを取り入れて町を発展させる

以上、中学生が考えた将来へのまちづくり提案・想いについては、鹿折まちづくり協議会が作成した提言書に反映させていただきました。ご協力していただきました鹿折中学校のみなさまには、厚く御礼申し上げます。